

第4章 聖化

□はじめに・・・ 聖化について、次のアウトラインにより学んでいます。

1. 「聖化」の意味

聖化に関連する9つのギリシヤ語が使われている箇所を見ると、「聖化」の基本的意味は、「別に取り分けること」であると、わかります。日本語聖書で「聖化」ではなく、「聖別」とも訳されるのは、そのためです。

2. 「別に取り分けること」の8つのパターン

誰が（何が）、誰を（何を）、別に取り分けるのでしょうか。
聖書では、8つのパターンがあります。

3. 「聖化」はどのようにして起きるのか 5つ

8つのパターンのうち、この学びで対象とするのは、神が信者をこの世とは別に取り分けてくださるパターンです。神学では、これを「聖化」と呼びます。それはどのようにして起きるのでしょうか。まず、信者が自分の清潔さや正しい行いに立たず、イエス・キリストにあるという地位に立つことです。このことをはじめとして、5つのことがポイントとなります。

4. 「聖化」の主体・動因・経路

前の「3.」では、聖化がどのようにして起きるのか、5つのポイントがありました。ここでは、聖化について、あらためて、主体、動因、経路の3つの局面から見ます。聖化は、①三位一体の神が主体となって起きることです。②神が働かれるとき、それは神の良きみこころから発するものです。③聖化は聖書に記された神の**ことば**を通して行われます。

聖化の主体は三位一体の神、動因は神の良きみこころ、経路は神の**ことば**、です。

5. 「聖化」のタイプ 4つ

聖書は、聖化のタイプが4つあることを教えています。

- (1) 人を**信者に導く**ための聖化
- (2) その人を神の目から見て、**すでに完全に聖いという地位を与える**聖化。この地位は、信者となった瞬間に与えられます。
- (3) 信者の内側を**その地位にふさわしい者へと変えていく**聖化
- (4) その人の内側から罪の存在そのものをなくしてしまう、そしてその体にも罪の影響を全く残さない聖化。これは、**最終的聖化、あるいは栄化**と呼ばれます。

第5節 「聖化」の4つのタイプ

1. 準備的聖化（Ⅱテサ 2：13）・・・人を信者に導くための聖化。聖霊がその人をこの世から取り分けてくださる。
2. 地位的聖化（使 20：32、ロマ 6：1～10、Ⅰコリ 1：2、6：11、ヘブ 10：10、14）・・・その人が神の恵みにより信仰を通して救われたその瞬間、すなわち信者となったその瞬間、神の目から見て、イエス・キリストにあつて「すでに完全に聖い」という地位を与えられる。
3. 漸進的聖化、または経験的聖化・・・信者をその地位にふさわしく、その内面を変えていく。罪の力からの解放、言い換えると、罪の性質によって影響されることからの解放である。この聖化は、徐々に進んでいくものであるので、漸進的である。また、信仰生活と教会生活の中で経験されていくものであるので、経験的である。
 - (1) 罪の力からの救いである（ロマ 6：1～14）
 - ① 4節 新しいいのちにあつて歩む
 - ② 6節 古い人（罪の性質）はキリストとともに十字架につけられた
 - ③ 6節 それゆえ、罪のからだは無力化している。私たちはもはや罪の奴隷ではない
 - (2) 信者をその地位にふさわしく、実際にも清い者とするのが目的である。
 - (3) 世的であることから逆方向に行くことである。
 - ① ロマ 6：19～22 不法に進むか、聖化に進むか
 - ② ロマ 12：1～2 この世と調子を合わせてはいけない
 - (4) 霊的成長をもたらす
 - ① Ⅱコリ 3：18 主と同じ姿に変えられて行く
 - ② Ⅱペテ 3：18 イエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい
 - (5) 信者が、神の御子のイメージに調和していくこと、メシアに似た者とされていくことである
 - ① ビリ 1：9～11 （後記参照）
 - ② Ⅱペテ 1：5～8 （後記参照）

- (6) 聖化のための手段は、二つ
- ① 一つは、信者が自分の肢体を、義の道具として差し出すこと。これは、神のご用のために自分の体を捧げることを意味する（ロマ 6 : 13）。
 - ② 二つ目は、神のことばによる洗いである（エペ 5 : 26）。
- (7) とはいえ、聖化は、人のわざではなく、神のわざである
- ① エペ 2 : 10
 - ② II テモ 3 : 17
 - ③ テト 2 : 14
- (8) 肉体の死を迎えるまでの間、完全には達しない。信者の救いが完成されるのは、4つ目の聖化、最終的聖化による。
- (9) 聖書は、信者に対して、地位的聖化の土台の上に立って、聖い生活をするよう勧める。その理由は、そうすれば神が信者に漸進的聖化を与えてくださるからである。人の努力を勧めているのではない。
- ① I テサ 4 : 3
 - ② I ペテ 1 : 15～16
- (10) 漸進的聖化は 2 つの面をもつ
- ① 信者の人間的な性質における汚れや腐敗が、徐々に取り除かれていく（ロマ 6 : 6、ガラ 5 : 13～14）
 - ② 神とつながった新しいいのちが、徐々に成長していく（ロマ 6 : 4～5、ガラ 2 : 19「神に生きる」、コロ 2 : 12「キリストとともによみがえらされた」、コロ 3 : 1～2）

4. 最終的聖化・・・罪の性質がなくなる。罪そのものからの解放

(1) イエスが戻るとき（教会の携挙のとき）に実現する（⑦と⑧は補足）

- ① エペ 5 : 27 「しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせる」
- ② Iテサ 3 : 13 「私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように」・・・4 : 14 「イエスにあつて【直訳：イエスによつて】眠った人々をイエスといっしょに連れて来られる」
- ③ Iテサ 5 : 23~24 「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。主イエス・キリストの来臨の時、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように」
- ④ ヘブ 9 : 28 「二度目は、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られる」
- ⑤ Iヨハ 3 : 2 「キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となる」
- ⑥ ユダ 24~25 「傷のない者として、・・・栄光の御前に立たせる」
- ⑦ Iコリ 1 : 7~8 「私たちの主イエス・キリストの現れを待っています。・・・私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、」
- ⑧ Iコリ 13 : 12 「その時には、・・・私も完全に知ることになります」

(2) 教会の信者たちの全員が、最終的聖化を同時に受け取る

- ① 先に死んだ信者たちは、肉体から霊魂が離れた瞬間、その霊魂の中にあつた罪の性質は消去される。その点では、霊魂は罪の性質から解放されていることになるが、体は罪ゆえに朽ちて土・ちりに帰ったままである。
- ② また、地上で生きている信者の霊魂の中には、罪の性質が残っていて、かれらは漸進的聖化の途上にある。
- ③ よって、キリストの体としての教会全体で見るとき、教会に属する信者たちの最終的聖化は、まさにイエスが戻るとき、すなわち教会の信者全員を迎えに来てくださる携挙のとき、である。
- ④ 携挙のとき、先に死んだ信者たちは、栄光の体に復活する。また、そのとき地上で生き残っている信者たちは、一瞬のうちに、栄光の体に変換される。

(3) 栄光の体を受け取った信者たちの内側には、罪の性質はない。また、外側は朽ちる肉体ではない。不死の体である。この体と霊魂をもって、神の栄光の中で永遠に生きるときが来る。これが最終的聖化であり、栄化である。

(参考)

1. ペリ 1:9~11 私は祈っています・・・

聖化

(1) あなたがたの愛が、ますます豊かになりますように

① (どのようにして愛が豊かになるのか) 完全な知識とあらゆる識別力を持つ
中で

② (愛が豊かになると、どうなるのか) 違うものを見分けるようになる

(2) あなたがたが純真で、非難されることのない(傷のない)ように、キリストの日
において

① (その日には、どのようになっているのか) 満たされている、義の実に、イ
エス・キリストを通して

② (その日には、どこへ行くのか) 神の栄光と称賛へ

2. II ペテ 1:5~8 4節の「神の御性質にあずかる者となる」、そのプロセスを教える

(1) こういうわけですから、あらゆる努力をして、あなたの信仰に加えなさい

① あらゆる努力をして・・・「努力」と訳されている「ギ」スプーデーは、英語のスピードの語源になったことば。仕事などで迅速に能率よく動くさまを表現する。英語のスピードはその迅速さを意味するようになったが、「ギ」スプーデーは、仕事に能率よく取り組むことから「まじめさ」を表現することばである。

② よって、ここでペテロが「あらゆるスプーデーをもって」と勧めているのは、「日々たゆむことなく、まじめに」という意味である。聖化は1日でなされるものではない。

③ 加えなさい・・・「ギ」エピコレゲオウ、英語の「コーラス(合唱)」や「コレオグラフィ(バレエなどの振り付け、舞踊術)」の語源となったギリシヤ語で、本来の意味は、「いろいろな声を集めて合唱とする」。この箇所では、ペテロは、7つの恵みを集めていっしょにしている。もしこれらの7つの恵みがそろえば、その人のたましいは神が与えてくださるハーモニーを奏でる。

(2) 7つの恵み

- ① 徳・・・倫理的に考え、行動できる力
- ② 知識・・・洞察力、霊的な識別力を伴う理解力
- ③ 自制・・・何事にも極端に流れず、経験に裏打ちされた穏やかで健全な態度。節度。
- ④ 忍耐・・・困難に直面しても、逃げずに我慢する力。試練の中での辛抱。
- ⑤ 敬虔・・・この世のことに執着せず、霊的なことを重んずる姿勢
- ⑥ 兄弟愛・・・主にある兄弟姉妹に対して示す親切で思いやりのある言動
- ⑦ 愛・・・Ⅰコリ 13：4～7 「愛は、寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」